

新宿区教育委員会会議録

令和5年第4回臨時会

令和5年7月21日

新宿区教育委員会

令和5年第4回新宿区教育委員会臨時会

日 時 令和5年7月21日(金)

開会 午後 1時30分

閉会 午後 3時40分

場 所 新宿区役所6階第4委員会室

出席者

新宿区教育委員会

教 育 長	針 谷 弘 志	教育長職務代理者	山 下 浩一郎
委 員	古 笛 恵 子	委 員	星 野 洋
委 員	年 綱 和 代	委 員	鴨 川 明 子

説明のため出席した者の職氏名

次 長	遠 山 竜 多	教育調整課長	齊 藤 正 之
教育指導課長	坂 元 竜 二	総括指導主事	北 中 啓 勝
指導主事	鈴 木 智 子	教科用図書 検討委員会委員	馬場園 和 也
家庭科調査委員会 委員長	岩 澤 肇	図画工作科調査委員会 委員長	松 井 賢 仁
道徳科調査委員会 委員長	立 野 文 雄		

書記

教 育 調 整 課 教 主	林 竜 佑	教 育 調 整 課 教 管	大 原 颯 人
------------------	-------	------------------	---------

議事日程

協 議

- 1 令和6年度使用新宿区立小学校教科用図書の採択について

---

◎ 開 会

○教育長 ただいまから令和5年新宿区教育委員会第4回臨時会を開会いたします。

本日の会議には、全員が出席しておりますので、定足数を満たしています。

本日の会議録の署名者は、鴨川委員にお願いします。

○鴨川委員 かしこまりました。

---

◎ 協議1 令和6年度使用新宿区立小学校教科用図書の採択について

○教育長 本日、議事はございません。

前回に引き続き、協議1 令和6年度使用新宿区立小学校教科用図書の採択についての協議を行います。

本日は、教育委員会会議規則第13条の規定に基づき、教科用図書を専門的に調査した教科用図書調査委員会の各教科委員長に出席していただいております。

本日の協議の進め方についてです。

本日は、まず家庭、図画工作、道徳の各種目について協議を行います。

初めに、専門的に調査検討を行った教科用図書調査委員会の各教科委員長から、種目ごとに、指導要領の中での目標、教科の特性等、調査委員会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて説明を受け、質疑を行います。

その後、教科用図書検討委員会の検討結果について検討委員会委員から説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

次に、教育委員会第3回臨時会で協議を行った、音楽、国語、書写、算数、保健の各種目について、欠席をされました山下教育長職務代理者、鴨川委員から、採択に最もふさわしいと考える教科用図書についての御意見をお伺いいたします。

その後、これまでの協議において、採択の対象となる教科用図書の絞り込みが2種となっている英語について、改めて採択の対象となる教科用図書の候補を1種に絞り込みたいと思います。

なお、本日協議する各種目の教科用図書については、8月4日に開催する予定の教育委員会定例会で採択を行うことを予定しています。

それでは、まず家庭について御説明をお願いいたします。

なお、この後の説明については、着座でお願いいたします。

○家庭科調査委員会委員長 家庭科調査委員会委員長、四谷第六小学校長、岩澤肇です。

まず家庭科の目標に関しましてお話をいたします。

とじ込み冊子268ページのところに目標に関して記載がございます。

家庭科の目標は、「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成」とあります。

具体的には、（１）家族、家庭、衣食住、消費や環境について、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけようとする。（２）日常生活の中から問題を見だし課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えることを表現する等、課題を解決する力を養う。（３）家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養うの３点があります。

これに基づき、調査検討した結果をお知らせいたします。

まず最初に、家庭科は２者の提供となっております。我々委員の中でも意見が割れ、それぞれこの趣旨に沿ったよさがあり、甲乙つけ難かったというところも最初にお伝えさせていただきます。

では、２冊でございますので、東京書籍から御説明させていただきますが、少しオレンジ色のほうのものになります。

まず、全体的に情報量が適度であり、色使いが非常にカラフルで見やすいという意見が多く出ております。

さらに、単元構成の仕方が、大きいと感じました。例えば92ページを開いていただくと、「夏をすずしくさわやかに」という単元で、ここで暮らし方、住まい方、洗濯というように、夏を涼しく爽やかにするという趣旨をもって暮らし方や洗濯まで進めているという、大きい単元の進め方は、日常生活の営みに非常に沿っていると思いました。

また、101ページの右上に「プロに聞く」というコーナーがあります。このようなコーナーがあることで、他教科や中学校等との連携がよく意図されていると感じられました。

また、同じ101ページの右下にイエッティ君という家のキャラクターがいるのですが、これがポイントを示すキャラクターとして常に使われておりました。児童のつまずきそうなポイントを継続的に、同じキャラクターを通して伝えてくれているところは、非常によい指摘

の仕方だという意見がございました。

評価は、内容の選択B、構成・分量A、表記・表現B、使用上の便宜Bということで、総合評価をBとさせていただきます。

開隆堂出版の御説明に移らせていただきます。

開隆堂出版ですが、実習に関する図解が大きく見開きで表示されている。それが常に左から右に流れる形になっております。具体的に、22ページを挙げさせていただきますと、手縫いの手順というところで、22ページ、23ページの見開きを使って示されております。常に左から右という流れ方で様々な実習が示されておりますので、子どもにとって見やすい表記であると思われました。

また、24ページ、ここはあえて写真ではなく図を使って示されています。糸とボタンの関係性を写真で示すと、恐らく狭くなり見えにくくなってしまいますが、図や絵を用いることで、分かりやすく示されるようになり、委員の中でよい示し方だという意見が多く出ました。あえて写真ではなくて見やすいイラストを使うというところも、配慮が行き届いていると感じました。

それから、日本の文化、SDGs等を発展的に学習できるように配置されていると同時に、132ページを開いていただきますと、「持続可能な社会のために」という単元がございます。SDGsを単元1つ起こして示していただいていることも、非常に好感が持てると感じた委員が多くおりました。

最後になりますが、背表紙のところに切り方の図解を掲載しているのは、実習を行う際に、このまま置いておくことで非常に見やすいという意見も多く出ておりました。

評価は、内容の選択A、構成・分量B、表記・表現A、使用上の便宜Bということで、総合をAとさせていただきます。

以上となります。

○教育長 説明が終わりました。

御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

○星野委員 目次のところで、開隆堂出版だと4、5ページ、東京書籍だと6、7ページですが、開隆堂出版の場合は「生活を見つめ、できることを増やしていこう」ということで11単元。次に、「くふうして、生活に生かそう」ということで9単元に分かれています。一方で、東京書籍では、5年生の目標として8単元、6年生の目標として7単元に分かれています。これは授業を行う上でどちらがやりやすいですか、そのようなことはあるのでしょうか。

○家庭科調査委員会委員長 先ほど示させていただいたように、大きい単元構成で生活そのものから一つひとつのものに入っていくという点では、まとまっている単元構成のほうがよいという考え方もありました。

一方で細かく、今日はこの単元、この週はこの学習するという点では、一つひとつの単元が細かく出ているほうがよいという意見の両方が出まして、これは甲乙つけ難いと感じております。

○教育長 よろしいでしょうか。

ほかにいかがでしょうか。

○年綱委員 質問させていただきます。

開隆堂出版は、キャリア教育が最後のほうに載っているのですが、東京書籍も、先ほど委員長からお話があったように、ところどころコメントは載っています。家庭科の中で、キャリア教育ということは時間数として取られているのでしょうか。

○家庭科調査委員会委員長 キャリア教育は、家庭科も含めて全ての教科を通して学ぶということになっています。また、当然、社会科、総合的な学習と関連しながら学んでいくことになります。

○年綱委員 ありがとうございます。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかに御意見、御質問がなければ、次に図画工作科について御説明をお願いいたします。

○図画工作科調査委員会委員長 図画工作科調査委員会委員長、落合第一小学校長、松井賢仁です。

よろしくお願いたします。

まず、図画工作科の教科の目標から触れてまいります。

配られている資料ですと252ページに載っておりますので、御参照いただければと思います。

まず、図画工作科の目標ですが、「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。」となっております。

3つの柱があります。1つ目、「対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や

行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。」。2つ目、「造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などを工夫して、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。」。3つ目、「つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。」となっております。

次に、教科の特性ですが、今申しあげました3つの目標それぞれにクリエイティブなほうの創造を位置づけておりまして、図画工作科の学習が造形的創造活動を目指していることを示しています。

創造性を重視する図画工作科の特質を踏まえ、一人一人の児童の創造性に着目し、それ自体が文化や生活、社会そのものをつくり出す態度の育成につながるという視点を大切にしている教科でございます。

このたび、これらに基づいてそれぞれ2者の教科書ですが、内容、構成、表記、使用上の便宜について検討を重ねてまいりました。

それぞれについて申し上げます。

お手元に教科書があれば、御覧いただきながらと思っております。

まず日本文教出版ですが、内容につきまして、全巻にアートカードの活用法がついております。それが学年に応じた鑑賞の活動に生かすことができ、とても効果的であるという意見が多く出ました。

それから構成ですが、例えば3・4年上の22ページ、こちらにくぎ打ちが載っております。そして、その次、3・4年下の30ページになると、のこぎりが載っております。さらに、3・4年下の38ページには、木工作が載っています。このように分けられて掲載されていることで、段階を踏んで、いわばスモールステップで学習ができる構成が子どもたちの学びにとても効果的であるという意見が出ました。

次に、写真の扱い方についても意見が出ました。例えばですが、3・4年上の教科書の50ページを御覧いただきますと「ねん土マイタウン」があります。そこに使われている写真が子どもの目線のように作品にぐっと近づいて、下から撮っている写真が複数見られます。そういうことが、子どもの想像力、創造性を刺激するものとなっており、子どもの意欲、創造性を刺激するということで評価する意見が出ました。

同じように、写真の扱いとしましては、例えば、5・6年上の26ページに載っております



ように、非常に写真の背景がシンプルで見やすいため、子どもたちにその情報が入ってきやすい、届きやすい写真であるという意見が出ました。

さらに、鑑賞のページがすっきりしていて文字情報が精選されていることよき、巻末の材料と道具のページが、子どもが自分で情報を読み取りやすい内容になっている、そういったことを評価する声が出ました。

具体的には以上のことですが、評価としましては、内容の選択A、構成・分量A、表記・表現A、使用上の便宜Aということで、総合的には、情報が精選されていて、題材の本質が伝わりやすい。それから、全学年の巻末にアートカードを使った活動の紹介があり、鑑賞の授業に取り組みやすいという意見から、総合的にもAと評価いたしました。

次に、開隆堂出版です。

開隆堂出版も、まず1つ目としては、これはあらゆるページの全巻にわたって、ページの右下を御覧いただきたいのですが、他教科とのつながり、さまざまな教科が示されています。道徳や国語、生活など、つながりが必ず示されております。そういったところで、子どもたちも指導者も教科横断的な取組を意識して、この図工の学習に取り組むことができる、これをとても評価する声が出ました。

次に、例えば、1・2年上の教科書の28ページ、29ページ、そこにさまざまな材料が示されています。その次の30ページでは、つくり方の詳細が記載されています。そういったことが、とても親切で分かりやすいという声が出ました。

さらに、別の視点で、学習を深めるお手伝いをするキャラクターが登場しており、子どもがこの教科書を扱うときに、とても注目しやすくなっています。これも全巻にわたって、さまざまなページに示されています。

最後になりますが、指導の重点、あるいは学習の狙いといったものが、カテゴリー毎に分かれていて、児童にとっても教科書を扱う指導者側にとっても、とても分かりやすく示されています。

評価としましては、内容の選択B、構成・分量A、表記・表現A、使用上の便宜B、総合的な意見としましては、材料や用具が詳しく例示されており、授業で活用しやすい。題材ごとの目当ての重点が強調されていて、指導につなげやすい、そういった意見となりました。総合の評価としては、Bと評価させていただきました。

以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

○鴨川委員 御説明ありがとうございました。

新宿区では、図画工作科は専科の先生が教えられるということでもよろしいでしょうか。

○図画工作科調査委員会委員長 そのように理解しております。

ただ、低学年については、学級担任が指導しているという状況です。

○鴨川委員 ありがとうございます。

○山下委員 どちらの教科書もタブレットを使って、例えばアニメーションをつくるということや、プロジェクションマッピングのことも書かれているのですが、そういう作品づくりというのは実際に行われているのでしょうか。

○図画工作科調査委員会委員長 それぞれの学校、それぞれの先生の力量にもよりますが、進めております。実際に私もそれを拝見しております。

○山下委員 ありがとうございます。

○古笛委員 新宿区の子どもたちですが、実際に美術館に行ったりなど、鑑賞の機会というものはあるのでしょうか。

○図画工作科調査委員会委員長 新宿区では、新宿駅前にSOMPPO損保美術館がございまして、そちらとは本当に深く連携し、慈善事業も含めて、子どもたちの自由な発想を引き出す鑑賞教育というのを続けております。

○教育長 よろしいでしょうか。

○古笛委員 はい。

○教育長 ほかにいかがですか。よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかに御意見、御質問がなければ、次に道德についての御説明をお願いいたします。

○道徳科調査委員会委員長 道徳科調査委員長の戸塚第三小学校長、立野文雄と申します。よろしくお願いいたします。

まず道徳科の目標についてお話をさせていただきます。お手元の資料ですと、356ページに掲載されており、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実戦意欲と態度を育てる。」となっております。

次に、各学年で学習する内容項目についてお伝えいたします。

A、B、C、Dの4つの視点から成っております。まず「A 主として自分自身に関すること」、この中の内容項目は「善悪の判断、自律、自由と責任」、「正直、誠実」、「節度、節制」、「個性の伸長」、「希望と勇気、努力と強い意志」、「真理の探究」です。

次に、「B 主として人との関わりに関すること」、この中の内容項目は「親切、思いやり」、「感謝」、「礼儀」、「友情、信頼」、「相互理解、寛容」です。

次に、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」、この中の内容項目は「規則の尊重」、「公正、公平、社会正義」、「勤労、公共の精神」、「家族愛、家庭生活の充実」、「よりよい学校生活、集団生活の充実」、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」、「国際理解、国際親善」です。

次に、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」、この中の内容項目は「生命の尊さ」、「自然愛護」、「感動、畏敬の念」、「よりよく生きる喜び」です。

各学年の内容項目の数は、第1学年、第2学年は19項目、第3学年、第4学年は20項目、第5学年、第6学年は22項目となっております。

続きまして、道徳性を養うための道徳科の学習について、4点お伝えいたします。

1点目は、道徳的諸価値について理解すること。2点目は、自己を見つめること。3点目は、物事を多面的・多角的に考えること。4点目は、自己の生き方についての考えを深めることです。

学習を展開していく上では、教員が道徳科における多様な指導方法を行っていく必要があります。その中で、特に取り上げられていますのが、次の3点です。1点目は、読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習。2点目は、問題解決的な学習。3点目は、道徳行為に関する体験的な学習です。

「自我関与」という言葉が出てまいりましたが、これは登場人物の判断や心情を考慮することで、道徳的価値について自分との関わりで児童が考えていくことと道徳では捉えています。

それでは、次に各者の評価についてお伝えいたします。

道徳科調査委員会では、6者について調査を行いました。4つの基準である内容の選択、構成・分量、表記・表現、使用上の便宜について検討を行いました。発行者の番号順にお伝えいたします。

まず、東京書籍は、読みやすい表現で書かれている。挿絵や写真も適度に入っており、児童が内容を理解し考えを深めたり広げたりすることにつながられる。また、文学教材や現代的課題を取り上げた教材も多く、児童に親しみやすい。全体的に、教員の意図する授業の展

開がしやすくなっているという評価から、それぞれの基準の評価は、A、B、B、Bで、総合評価はBでした。

教育出版は、内容項目がバランスよく構成されており、教員が使いやすくなっている。また、「たいけん」の欄は、児童が自分の生活に生かすことができるようになっているなど、多様な指導へとつながる構成になっているという評価から、基準の評価はC、C、C、Bで、総合評価はCでした。

光村図書は、全体的に文章が読みやすく、挿絵や写真も効果的に用いられていることにより、児童が場面を思い浮かべやすい。道徳科の授業で学びが行動につながるように、他教科との関連や、日常生活への意識づけができる構成になっているという評価から、基準の評価は、B、B、C、Bで、総合評価はBでした。

日本文教出版は、教材は、現代的な課題が掲載されるなど、児童が興味を持って読んだり考えたりできる内容となっている。また、適宜、挿絵や写真が効果的に入っていたり、文字の大きさが工夫されていたりして、全体的に見やすい。学期の初めに「命の大切さ」や人との関わりを主題とする教材となっているなど、全体構成が考えられ工夫されているという評価から、基準の評価は、B、B、B、Bで、総合評価はBでした。

光文書院は、教材は内容も幅広く、児童が進んで読んだり考えたりしたくなる現代的なものから、教員も親しみを持って指導できる長年使用されているものまで掲載されている。挿絵や写真などが工夫されているという評価から、基準の評価は、B、C、B、Cで、総合評価はCでした。

最後に、学研は、全体的の写真等が美しく、児童の興味や関心を喚起しつつ道徳的価値に迫ることができる。また、SNSやオリンピック・パラリンピックなど、今日的な課題・話題について多く掲載されており、児童が関心を持ち、教員の意図する授業の展開がしやすくなっているという評価から、基準の評価は、B、C、B、Bで、総合評価はBでした。

調査委員会の中では、総合評価をAとした教科書はありませんでしたが、今述べましたように、どの教科書も様々なところで工夫されているという意見が多くありました。1者に絞ることはできませんでしたが、調査委員会では、総合評価Bのうち東京書籍と日本文教出版の2者について、高評価の意見が多く出ました。そこで、この2者について、もう少しお話をさせていただきます。

東京書籍は、内容の選択について、優れている、Aという意見が複数ありました。また、振り返りのページがあり、児童が1時間の内容を見直しやすい。SDGsについて分かりや

すく表現されている。関連図書が紹介されており、他教科でも活用できるといった意見がありました。

日本文教出版については、現代的な課題の教材やこれまで使われてきた定番の教材など、全体的にバランスがよく構成されている。同者の現行の教科書より挿絵や発問など工夫され、使いやすくなっている。読み物教材では、最初のページに登場人物の挿絵があり、児童が教材を理解しやすいといった意見がありました。

また、日本文教出版の道徳ノートについては、本冊には発問があるものの、別冊ノートには発問が記載されておらず、教師の意図する授業が展開できる。上の欄にけい線がなく、学年や教材に応じて活用しやすいといった意見がありました。

道徳からは以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。

御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

○山下委員 このノートは非常に特徴的だと思ったのですが、日本文教出版以外で、例えばデジタルで配られているなど、そういうものはあるのでしょうか。

○道徳科調査委員会委員長 別冊で出ておりますのは、今回は日本文教出版だけになっておりました。

○山下委員 ありがとうございます。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

○古笛委員 引き続き、道徳ノートのことで質問です。前回からこの道徳ノートがよいのかどうかという話がありました。教える先生にとっても、また子どもたちにとっても、毎回書くのは大変ではないのかという意見があったのですが、実際にこれまで使われてみて、先生方や子どもたちの意見はいかがでしょうか。

○道徳科調査委員会委員長 道徳ノートにつきましては、前回のときも、使いやすい、いや使いにくいのではないかと、という両方の意見がありました。実際使ってみまして、若手や、それから道徳に不慣れな教員にとっては、道徳ノートがあることで活用しやすい、まとめやすいという、そういうよさはあったと思います。

一方で、ベテランの、道徳の専門の教員にとっては、現行では発問が記載されているので、それにとらわれて使いにくさもあるのではないかとという意見はありました。今回はその点が改善されている、工夫されていると話題になりました。

○教育長 よろしいでしょうか。

○古笛委員 引き続き質問いたします。実際に、子どもたちは何分ぐらいで道徳ノートを書いているのでしょうか。

○道徳科調査委員会委員長 学年によって差はありますが、上の学年ですと、今の分量だと3分から5分ぐらいで書けるのではないかと思います。下の学年ですと、5分以上かかる学年もございます。

現行の教科書ですと、前は上にも下にもけい線が引いてありまして、それぞれ活用できるようになっておりました。今回は、上のけい線がなくなっており、そこが工夫されていると話題に出ました。例えば、下には言葉を書きますが、上のけい線のないところには絵も描けるというのが、調査委員会でも話題になりました。

○教育長 ほかにはいかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかに御意見、御質問がなければ、これで指導要領の中での目標、教科の特性等、調査委員会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについての質疑を終了します。

ここで、教科用図書調査委員会の各教科委員長には御退席をいただきます。委員長の皆様、ありがとうございました。

[教科用図書調査委員会の各教科委員長退席]

○教育長 続いて、教科用図書検討委員会の検討結果について、検討委員会委員から、種目ごとに説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

それでは、まず家庭について説明をお願いいたします。

○統括指導主事 統括指導主事でございます。

それでは、家庭について調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

東京書籍、開隆堂出版ともに、29校中9校がA評価でした。

調査委員会の調査結果は、開隆堂出版が総合評価でAでした。

検討委員会では、開隆堂出版をA評価としました。

その理由・意見として、調理実習、裁縫実習の図解が見やすく大きく配置されており、児童の活動に即している。手順がスモールステップで記載されていて分かりやすいなどの意見が挙げられていました。

また、検討委員会では、東京書籍に関する意見として、大きい単元構成となっていて、思

考に沿ってじっくり学習に取り組むことができるなどが、よい点として挙げられていました。

最終的に検討委員会として、学校調査・調査委員会調査の報告などを踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が多く、調査委員会評価でA評価であった開隆堂出版をAと評価いたしました。

以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御質問がありましたら、お願いいたします。

[発言する者なし]

○教育長 特に御質問がないようですので、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認していきたいと思います。

○山下委員 両者とても分かりやすく、これから家庭を担う子どもたちが知識を身につけるのは常識になってきていますが、大きく違うと思ったのが、安全性や失敗したときの対応がどう書かれているかだと思いました。

例えば食物アレルギーについて、開隆堂出版だと17ページの下に非常にしっかりと書かれていて、特に自分以外の、友達や家族にアレルギーがあるときにどうすればよいのかというのは、やはりこれぐらい細かく書かれていると、これから自分でつくるときや、友達と食事を一緒にするとき非常によいと思いました。

あと、顕著に出ていたのが、開隆堂出版の64ページですが、買物に困ったときにどうすればよいのかというのが、子ども目線で、実際にありそうな内容が具体的に書かれていて、学ぶ側も教える側も非常にやりやすいと思いました。

そういうところを含めまして、調査委員会のおり、開隆堂出版の教科書がよろしいのではないかと思います。

以上です。

○星野委員 結論としましては、開隆堂出版にいたしました。

勉強の流れとしては、開隆堂出版ですと、気づく、見つける、分かる、できる、生かす、深める。東京書籍ですと、見つけよう、計画しよう、実践しよう、生活に生かそう、新しい家庭を見つけようなど、流れとしては同じで、そういう流れを見る限り、甲乙つけ難い部分がありました。説明にもありましたが、裁縫のところの図が見やすいのは、分かりやすく記載するのが大事な單元だと思いますので、とてもよいと思いました。食文化や献立についても種類が多く載ってまして、よいと思いました。

以上により、開隆堂出版を候補といたしました。

○古笛委員 私も結論としては、開隆堂出版にいたしました。

先ほど調査委員会委員長からもお話があったとおり、やはり見やすいということは、非常にインパクトが強かったです。どちらもよく書けているのに、なぜ開隆堂出版のほうが見やすいのかと、文字の太さや大きさ、背景や色使いといろいろ考えましたが、写真の代わりに適度にイラストを使っているということは、調査委員会委員長に指摘され初めて気づきました。イラストを上手に使っていることで見やすく分かりやすかったのだと思いました。

それから、山下職務代理からもお話があったとおり、アレルギーについての説明が上手だという気はしました。アレルギーについて勉強しましょうというと、なかなかハードルが高いと思いますが、卵のゆで方のところにアレルギーの話が出てきたりということで、このような形で子どもたちにも理解してもらえたらよいと思いました。

○年綱委員 私も開隆堂出版がよいと思いました。

今まで委員の皆様がおっしゃられたことのほかに、やはりキャリア教育について、東京書籍のほうも小出しで出てはいるのですが、最後にまとめられている開隆堂出版のほうが良いと思いました。日本の伝統文化、食文化というところで、例えば103ページの受け継がれている食生活の文化に、風呂敷が出てくるのですが、風呂敷を作る人、それから織る人というように関連づけられており、風呂敷といった日本の伝統文化に馴染みのない子どもたちが身近に感じるのではないかと思います。

また、子どもたちが生活していく上で、今、家族が皆忙しくなっていますので、この一冊を見たときに自分でやってみようということができないのではないかと、御飯を炊くのはどうしたらよいのか、電気が使えなかったらどうしたらよいのかということも、開隆堂出版のほうで分かりやすく記載されているのではないかと思います。

最後に、「学習のめあて」をチェックして自分で振り返るという点でも、開隆堂出版は分かりやすくできていて、よかったです。

○鴨川委員 私も開隆堂出版のものがふさわしいと思っております。

理由が3つございまして、1つ目は、先ほど御説明がありました、各委員会及び学校調査の評価が総じて高いからです。

2つ目は、内容面で先ほど年綱委員もおっしゃっていたとおり、キャリア教育とのつながりを非常に大切に考えられていると分かるからです。特に、キャリアインタビューが各単元で盛り込まれているというのは、とてもよいと思いました。



少しこうなったらよいと思ったのは、ライフストーリーのように、その人たちが小学生のときに何をしていたかということが分かれば、小学生にとってはよりつながりを持って考えられると思いました。

3つ目は、家庭科というのは、座学というよりは実習が命の教科ではないかと認識しています。先ほど委員がおっしゃっていたとおり、手順が非常にスモールステップで、一つ一つ一行で書かれていて分かりやすくなっているため、なかなか集中できない子どもたちでも取り組みやすいのではないかと考えたからです。

以上、3点から開隆堂出版のものがふさわしいと考えます。

○教育長 ありがとうございます。

私からも意見を述べさせていただきます。

検討委員会の報告などからも、やや開隆堂出版のほうの評価が高いということでした。調査内容を見たときにも、実習や観察に関する項目について、やや開隆堂出版が多いと感じました。また、振り返り、「学習をふり返ろう」というところで明確に設定されているほか、「生活に生かそう」ということから、習ったことを日常生活に役立てる、実学としてどうしたらよいのかを考えさせる仕組みが入れられていると思いました。

また、持続可能な社会を一つの単元で取り上げているという報告もありましたし、「キャリアでつなぐ、持続可能な未来」といったところで様々な人からのインタビュー記事が掲載されておりまして、生活と環境、自分との関係などを考えるきっかけとしてもよい教材になるというように思いましたので、私も開隆堂出版とさせていただきます。

ほかに御意見よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 それでは、今までの協議内容の確認をしたいと思います。家庭については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、開隆堂出版発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 それでは、そのように進めたいと思います。

次に、図画工作について説明をお願いいたします。

○統括指導主事 統括指導主事でございます。

それでは、図画工作についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

開隆堂出版、日本文教出版ともに、29校中16校がA評価でした。

調査委員会の調査結果は、日本文教出版が総合評価でAでした。

検討委員会では、日本文教出版をA評価としました。

その理由・意見として、情報が精選されており、題材の本質が伝わりやすい。全学年の巻末にアートカードを使った活動の紹介があり、鑑賞の授業に取り組みやすいなどの意見が挙げられていました。

また、検討委員会では、開隆堂出版に関する意見として、材料や用具が詳しく例示されており、授業で活用しやすいなどが、よい点として挙げられていました。

最終的に、検討委員会として学校調査・調査委員会調査の報告などを踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が多く、調査委員会評価でA評価であった日本文教出版をAと評価しました。

以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御質問がありましたら、お願いいたします。

○古笛委員 今御意見いただいたアートカードは、実際の授業でどのように使っているのでしょうか。

○統括指導主事 活用の仕方は、それぞれの教員によって様々ですが、カード状になっておりますので、例えばそのカードを机の上に広げて、鑑賞して、それぞれ感じたことを交流し合うというものもあれば、さらに活動を工夫して、カードになっていますので裏返して置き、何が出るか分からない、めくってみたら何が出るか、といったこともできます。子どもが楽しみながら鑑賞活動を行えるように、カードという特性を生かした様々な工夫を、各学校の図画工作の先生方が行っているという状況です。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかに御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

○山下委員 図画工作の教科書ですので、印刷がとてもきれいで、図版も大きくて、見ているだけでとても楽しい、どちらも素晴らしい教科書だと思いました。特に開隆堂出版の「学校もりあげマスコット」は、とてもかわいくて、子どもたちがとても喜ぶだろうと思って見ていました。

どちらもすばらしいので、非常に悩みました。私は、実は小学校の頃はあまり図画工作が得意ではなかったのですが、どちらがより分かりやすいか、集中してものをつくろうと思うのかを考えたとき、直感的に日本文教出版のほうだと思いました。

さまざまなページを見ていると、写真の撮り方が非常に面白いと思いました。被写界深度とって、ピントの合う焦点距離が非常に短くて、集中して見てほしいところにピントを合わせて撮っている写真がとても多いと気づきました。作品にピントが合っていて、後ろの子どもは少しぼけているので、どこに集中して見てほしいかというのが明らかになっていると思いました。

あともう一つ、次のステップにどういうことができるのか、「つながる図工」というテーマでシリーズを通してまとめられていると気づきました。例えば3・4年生の下巻では、英語でどのように伝えるかということが書かれたりして、さまざまな状況を美術やアートを使って表現していくということが書かれており、よいと思いました。

そういうことを総合的に判断して、日本文教出版の教科書がよろしいと思います。

以上です。

○星野委員 私も日本文教出版を選びました。

最近の教科書や図画の教科書というのは、子どもたちの作品や様子が多く載っていて、子どもたちも楽しい気持ちになれる写真や絵が増えています。

一方で、図画鑑賞や作品鑑賞に関しては、あまりどちらも本文に載っていないと感じていました。日本文教出版に関しましては、アートカードがあるため、子どもたちが様々な作品に触れることができ、本物が見たい時は美術館へ行ったり、他の本で見るといったこともできると思いました。作品の提示数でいうと、日本文教出版が多いと思いましたので、私は日本文教出版を選びました。

以上です。

○古笛委員 私も結論的には、日本文教出版にさせていただきました。

先ほど家庭科のときには、開隆堂出版はとても見やすいということをお話ししましたが、今回は開隆堂出版より日本文教出版のほうが見やすいという感じがありました。

私も同じように、のこぎりの使い方というところで比較しました。どちらも情報量としてはしっかり載っているのですが、例えば気をつけようというところをチェックマークの後にポイントを絞って書かれてあったり、切り方が、1、2、3と書かれてあったりで、分かりやすいと思いました。

それから、何といても、調査委員会のオールAという結論が出るというのは、やはりすばらしいと思いました。

それから、最後の決め手となったのは、先ほど調査委員会委員長から、新宿区の子どもはSOMPO美術館に行き、さまざまな作品を鑑賞させてもらっているというお話があり、日本文教出版の中には、SOMPO美術館に書道の絵が掲載されているので、これはいつも行っているところだと、とても身近に感じるのではないかと思います。

以上から、日本文教出版にさせていただきました。

**○年綱委員** 私は、開隆堂出版の「つながる思い」や「わくわくするね」という、そういう図工に対しての子どもの気持ちが出ている表題は、とてもすてきだと思いました。

日本文教出版の教科書を見ていくと、先ほどからアートカードの話も上がってはいるのですが、各單元ごとに有名な方たちの、自分では見ることのできない絵やステンドグラスが載っています。そういう作品を載せた上で、自分たちがどのようにつくったらよいかという捉え方ができる構成になっていることが、私は子どもたちの感性が磨かれていく上で、とてもすてきな構成ではないかと思います。

さらに、道具、材料について、子どもたちは先生から御指導を受けているのですが、ボンドの量や出し方など、細かいところが、日本文教出版のほうだと、材料と道具の引き出しとして最後にまとめてくださっているのが、学年を通して非常に分かりやすくなっていると思いました。

以上から、日本文教出版がよいのではないかと思います。

**○鴨川委員** 私も日本文教出版のものがよいと思いました。

3つありますが、私は自分の子どもたちを見ていたときに、算数は得意ではないが、図工で救われている思うところがあって、図工で楽しい、わくわくするということを、教科書を通じて思ってもらえたらよいというのが前提としてあります。

その上で3つの理由ですが、1つ目は、学校調査や各委員会の評価が総じて高いということです。とりわけ古笛委員がおっしゃっていましたが、目の肥えた調査委員会で全てAというのは無視できないと思いました。

2つ目は、先ほど、わくわくする感じで図工に取り組んでもらいたいと言ったときに、日本文教出版の教科書のほうが、子ども目線で写真が撮られているということもあり、私自身も拝見していて、非常にわくわくをしました。両者ともにすてきな写真が多かったのですが、特にその点で、日本文教出版のものがよいと思いました。

3つ目は、これはもう特に申し上げませんが、アートカードの魅力というのは、私も感じました。

以上から、日本文教出版のものがふさわしいと考えました。

○教育長 ありがとうございます。

私からも発言させていただきます。

両者とも表紙から始まりまして、楽しく取り組める工夫が様々されていると思いました。巻末には、開隆堂出版のほうは「ひらめきショートチャレンジ」という取組、それから日本文教出版のほうは、アートカードを使った活動を紹介されておりまして、こういったところにも工夫が施されていると思います。

各委員からもありましたが、検討委員会の評価は日本文教出版のほうが高いということ、それから調査結果などを見ますと、掲載作品等の数は日本文教出版が上回るといったこともございました。

また、道具の使い方や学習の流れ、けがの防止等についての記載がしっかりされており、授業で使いやすいといった調査委員会からの報告もございまして、私も日本文教出版を推したいと思います。

それでは、今までの協議内容の確認をしたいと思います。図画工作については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、日本文教出版発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 それでは、そのように進めたいと思います。

次に、道徳についての説明をお願いいたします。

○統括指導主事 それでは、道徳についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

最もA評価の多かったのは日本文教出版で、29校中13校がA評価でした。

調査委員会の調査結果は、東京書籍、光村図書、日本文教出版、学研、この4者が総合評価でBでした。

検討委員会では、日本文教出版をA評価としました。

その理由・意見として、教材は現代的な課題が掲載されるなど、児童が興味を持って読んだり考えたりできる内容となっている。いじめ、国際理解など新宿区に合った内容もあり、よい。ノートの内容が改訂されており、使いやすくなっているなどの意見が挙げられました。

また、検討委員会では、東京書籍に関する意見として、挿絵や写真も適度に入っており、児童が内容を理解し、考えを深めたり広げたりすることにつながられる、光村図書に関する意見として、他教科との関連、日常生活への意識づけができるようになっているなどがよい点として挙げられていました。

最終的に検討委員会として、学校調査・調査委員会調査の報告などを踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会評価で評価の高かった日本文教出版をAと評価しました。

以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御質問がありましたら、お願いいたします。

○山下委員 現在、道徳の授業は週にどのくらいありますでしょうか。

○統括指導主事 基本的には、年間35時間、1年生は34時間、大体週1回程度ございます。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

○古笛委員 道徳が教科として始まって何年か経ちましたが、教科になったということで、現場から何か変わったということはお聞きになっているのでしょうか。

○統括指導主事 やはり教科となって、今までも教科書と似た資料はあったのですが、教科用図書ができ、そして本区の場合は、道徳ノートというものを今まで使っていたので、先生方は、教科書とともに授業の中で、子どもの考えや思考をしっかり記録を取って、それをしっかり評価につなげていくということをより強く意識するようになってきていると思います。それから、活動についても、多様なものを取り入れ、より工夫されるようになってきていると思います。

以上です。

○教育長 ほかにいかがですか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかに御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

○山下委員 私は道徳の教科書を見るときに、国語と道徳はどう違うのだろうと考えながら見ました。

自分や、友達といった身近な事柄として考えるというところが一番の違いだと思ったため、そういったことにどれくらいサポートできるのだろうという視点で見えていきました。

まず、日本文教出版と東京書籍で比較をしましたが、どちらも考えるというところを非常に深く追求されていました。例えば考えてみる、見つめようというものが後ろに一つひとつ書かれていたり、東京書籍は、さらにそれをどのように分解して考えるかというところまで書いてあって、子どもたちがどのような議論をしているかが想像できます。

そういった中で、やはり1つ目を引いたのは、ロールプレイングです。私は役者をやっているもので、実際にその役になって考えるというのはとても大事なことだと思っています。日本文教出版は、気持ちや感情などをどうしていくのかということが、とても細かく書かれていまして、相手の立場になって考えるということを深く追求できると思いました。

もう一つは、道徳ノートに、学期に一度、振り返りがあると思いますが、ここまでの学習を振り返ってみようや、心に残ったお話、もう一度、過去に話したことを振り返ってみようというものの中に「おうちの人から」という欄があります。自分たちだけではなく、それをうちに持ち帰り家族の人と話をするというところまで想定して、このノートは作られていることは、非常にありがたいと思いました。

自分の子どもがノートを持ち帰り、こういうことを話したと教えてくれる、その家庭での姿を想像できましたので、私は日本文教出版出版の道徳の教科書が一番よいと思いました。

以上です。

○**星野委員** 私も、日本文教出版の道徳の教科書を選びました。

新宿区の場合、外国にルーツを持つ方が多く住んでいるため、国際理解の文章が多く、世界人権宣言や子どもの権利条約なども載っているということは、やはり大事なことだと思います。

また、山下委員もおっしゃっていましたが、道徳ノートがあることで、自分の手で書いて学習することができ、それが理解につながると思いますので、私は日本文教出版を選びました。

以上です。

○**古笛委員** 私も日本文教出版にいたしました。

今、星野委員からもお話があったとおり、やはり世界人権宣言や子どもの権利条約など、それからさらにはいじめ防止対策推進法ということで、子どもたちだけではなくて保護者の方にもぜひ知っていただきたい情報が、かなりうまくまとめられていると思いました。それから、日本文教出版のものには、東京オリンピックやウイルスとの闘いというお話があったため、身近に捉えられるのではないかと思います。

道徳ノートにつきましては、道徳が教科になったときから、最初からこれがよいのか悪いのかということはずっと迷いながら採択してきているのですが、やはり現場の先生方から使いやすいということで、また今回、より使いやすくなったということで、道徳が教科として、評価も伴うということから、この道徳ノートを先生方がうまく使っているのであれば、そのままのほうがよいと思いました。

以上です。

○年綱委員 私も日本文教出版の道徳の教科書、「生きる力」がよいと思いました。

「生きる力」というタイトルに意味があると私は思います。子どもたちが1年生から6年生まで、気づき、考え、深める、見つめる、生かすということを、この「生きる力」を使って6年間学んでいくところに、私は意味があるのではないかと思います。

今、厳しい社会状況の中で、子どもたちは生きる力、生き抜く力を身につけていかなければなりません。日本文教出版の「生きる力」で、自分が気づき、考え、見つめて生きていく、自分はどうしたらよいかという強い心と相手を思う力が養われていくのではないかと私は思います。

そして、この道徳ノートですが、どの先生も学校で使いやすいとおっしゃっていて、先生方も指導しやすいということですし、この道徳ノートが仕上がったときに、自己の生き方のバイブルになるのではないかと考えたため、私は日本文教出版がよいと思います。

○鴨川委員 私の息子に「好きな教科は何か」と聞きますと「道徳と体育だ」と答えました。

なぜかと聞くと「道徳は答えがないからいいんだ。1つじゃないからいいんだ」という答え方をしまして、我が息子ながらすばらしい答え方だと思いました。しかし一方で、答えがないから先生は教えにくいのではないかと印象も持っています。

私は、教職課程で道徳の授業を幾つか見させていただくことがありまして、専門の先生が他教科に比べて多くなく、特に経験の浅い先生が教えにくそうにされているという印象を持っています。

そうしたときに、なぜ日本文教出版のものがよいと申し上げたかということの理由の一つは、先ほど御意見があったかと思いますが、別冊ノートがあって使いやすいからです。

もう一つは、各委員の先生方がおっしゃっていたとおり、現代的な課題を非常にバランスよく扱っておられるという点です。

道徳でいじめを扱うと、いじめの場면을想定するとか、いじめに対する考え方を聞くということが教えられたり、教科書を通じて伝えられたりすると思っていきましたが、内容面では



防止対策推進法がきっちり捉えられていたり、また国際的に視点を広げて世界人権宣言が出ていたり、法制度などもしっかり載せている点がよいと思いました。

さらに、子どものSOS相談窓口にまで展開しているという点なども、とてもよいと思いました。いじめ一つをとっても、このように展開できるのだということを感じ、すばらしいと思いました。

以上から、日本文教出版のものがふさわしいと考えます。

○教育長 私からも意見を述べさせていただきます。

最初に、表紙を見たときに、5者がイラストになっていて、日本文教出版だけが写真でした。それだけを見るとイラストの優しい感じがよいかないと思いましたが、中身を見ていきますと、日本文教出版では、演じる場面やグループで考えたり発表したりする場面、教室の様子、子どもたちが取り組む様子など、そこでも写真を使っていて、同じ年代の子どもたちが同じような活動をやっているということで、身近に感じられ、自分事として捉えられるのではないかと思い、そういう意味では、写真の強みが感じられてよい取組だと思いました。

道徳ノートの話になりますが、教科書に触れる子どもたちが、それぞれの項目ごとに1ページ分あるというのは、結構な量だと最初は思っていました。自分が思ったことや考えたこと、気づいたことを、上のほうの枠の中では、図や絵なども描け、自由に書き込むことができるといったことで、イメージを膨らますという意味ではよいと思ひまして、私も日本文教出版にさせていただきました。

それでは、今までの協議内容の確認をしたいと思ひます。道徳については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、日本文教出版発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 それでは、そのように進めたいと思ひます。

以上で、家庭、図画工作、道徳の質疑と、採択対象となる教科用図書の候補の絞り込みを終了いたします。

次に、教育委員会第3回臨時会で協議を行いました音楽、国語、書写、算数、保健の各種目について、欠席をされました山下教育長職務代理者、鴨川委員から、採択に最もふさわしいと考える教科用図書についての御意見をお伺いいたします。

なお、各教科の調査委員会の調査結果を踏まえた教科用図書検討委員会における検討内容につきましては、教育委員会第3回臨時会で説明がありました内容と同じ内容を、事前に説

明させていただきます。

それでは、まず音楽についての御意見からお伺いたします。

○山下委員 少し気になるところがありました。教育芸術社と教育出版で見ていて、まず笛のタンギングのところ、トゥートゥーと発音するのですが、教育芸術社のほうが、3年生の27ページ、「TUTU」と発音が書かれていて、教育出版のほうは日本語で「トゥートゥー」と書かれています。「TU」と書いて「トゥ」と発音するのは結構難しいように思いますが、小学校3年生で、あれは「ツ」と読んでしまわないかというのは気になりました。その辺りはどうなのでしょう。

○統括指導主事 実際は、その学年ですと音楽の教員、もしくは担任が、実際に口で言ってみて、それを子どもたちも一緒にやるという形になりますので、恐らくはどちらの表記でも、まず先生が模範として示して、それに日本語で書かれている読み方で指導はされているものと思います。

○山下委員 分かりました。

続けて質問よろしいでしょうか。リコーダーを分解したときのパートについて、教育芸術社のほうは、マウスピース、ウインドー、リップ、トーンホールとなっていて、教育出版のほうは、吹き口、窓、裏穴、頭部管、中部管、足部管となっています。実際どのように教えているのか少し分かりにくいと思いました。実際にリコーダーを吹いている人は、窓とは言わず、おそらくウインドーと言っていると思いますが、教育現場ではどうしているのでしょうか。

○統括指導主事 実際には、小学校ですので、教育出版のように子どもが分かるような呼び方に置き換えて指導している場面は、多いと思います。

しかし、音楽も専科の教員がおりますので、しっかりとした正式な名称で指導される先生もいますが、リコーダーは多くの場合、中学年から本格的に始まりますので、まずは分かる言葉で指導し、途中の段階で正式な名称についても確認するというところもあるのかと思います。

○山下委員 分かりました。

実際に教えるときに、この教科書と現場が違っていると困るのかなと思って見ていたのですが、結論から言うと、実際にオールAということもあり、教育出版のものでよろしいと思っています。

○教育長 ありがとうございます。

○鴨川委員 私は、教育出版のものがふさわしいと考えています。

2者、どちらも見やすく作っておられて、特に私は3年生を対比させていただきました。特に、先ほどおっしゃっていたように、中学年からリコーダーの学習が入ってくるので、このあたりが、全ての子どもが楽器を親しみ始めるときだと思ったものですから、3年生の教科書を比べさせていただきました。その中で、1つだけ決定的に違っている点があったのですが、それは「日本と世界の音楽」というタイトルで、世界の音楽が教育出版のほうには単元として設けられていることです。

新宿区の特性に鑑みますと、とてもそこはよいと思いました。とりわけ欧米先進国以外の国が世界の音楽の中に盛り込まれているというのが、よいと思いました。

以上です。

○教育長 ほかの委員からも御意見などがあれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 それでは、改めて確認をさせていただきます。

本日いただいた御意見も踏まえまして、音楽については、皆様の総意として、教育出版発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 それでは、そのように進めたいと思います。

次に、国語について御意見をお伺いします。

○山下委員 さきほど道徳のときにも言いましたが、考えるというところと、本を読んでどうやって理解していくかというところは別だと考えています。光村図書と東京書籍を比較させていただいたのですが、特にどのように本を読んでいくかというところが、やはり光村図書のほうがともしっかり書かれていて、東京書籍は、どちらかというところと見る側の子どもたちをサポートするように書かれていると思いました。

特に見たのが、「大造じいさんとガン」です。光村図書だけ最初の前書きが載っていますが、これがあるかないとでは、やはり読むイメージが全く違います。特に気になったのが、振り仮名で、例えば最初の人に、仲間が「えさ」をあさっていると東京書籍には書かれています。一方、光村図書には、仲間が「え」をあさっていると書かれていて、私も古典に携わっているので、「え」と「えさ」では、読むときに全く韻が違っているので、こういう原

文に従って書かれているというのは、非常にうれしいと思いました。

また、最後の「大造じいさんとガン」の、これはどちらも書かれていましたが、登場人物の心情をどう読み取っていくかという書かれ方が、光村図書のほうがよかったと思いました。

以上から、光村図書のものでよろしいと思います。

○鴨川委員 私も光村図書のものがふさわしいと考えています。

理由は3つありまして、1つ目は、各調査及び検討委員会の評価が総じて非常に高いということで、そちらを尊重したいということです。

2つ目は、これが一番私は決め手になっているのですが、言語活動の例示が各発行者の中で最も分かりやすく、対話の練習や話合いの例というのが具体的に書かれています。子どもにとっては、話合いをやってみなさいと放り出されても、なかなか難しい子もいると思いますが、そうした子にとってとてもよいのではないかと思います。

3つ目は、書くことに関する題材ですが、それが本当に子どもたちにとってとても身近なものが多くて、国語が苦手な子でも別に国語と思わなくても取り上げられる、分かりやすい題材が多いということがよいと思いました。

以上から、光村図書のものがふさわしいと思っています。

○教育長 ほかの委員からも何か御意見があれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 それでは、改めて確認をさせていただきます。

本日いただいた御意見も踏まえまして、国語については、皆様の総意として、光村図書発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 それでは、そのように進めたいと思います。

続いて、書写について御意見をお伺いいたします。

○山下委員 書写につきましては、光村図書と東京書籍を比較させていただきました。

まず猫があちこちで出てきています。それが子どもたちにとって払いなどと説明されるよりも、動物たちを使って説明されるほうが非常に分かりやすいと思いました。

また、4年生だと思いますが、SDGsと書写、「みんなで考えようSDGsブック」というのが中に挟まっていて、そこで書道とSDGsということをよく書かれていて、こういう観点もあるのかと私自身非常に勉強になりました。

そういうことを踏まえまして、光村図書の教科書でよろしいと思います。

以上です。

○**鴨川委員** 私も光村図書のものがよろしいと思っています。

今、山下職務代理がおっしゃっていたとおり、まず1つ目に驚いたのが、SDGsの内容と書写が、こういうふうにならに結びつくんだということと、それが効果的に表現されて盛り込まれている点に驚きを覚えました。

2つ目は、ユニバーサルや特別支援など、多様性への配慮が書写でもされていてよいと思いました。

3つ目が、分量がほどよくて、先ほどの国語とも同じですが、言語活動の例示が国語同様分かりやすいということが特に決め手になった点です。

以上をもって、光村図書のものがふさわしいと考えます。

○**教育長** ほかの委員から何か御意見があれば伺いたいと思いますが、いかがですか。

[発言する者なし]

○**教育長** それでは、改めて確認をさせていただきます。

本日いただいた御意見も踏まえまして、書写については、皆様の総意として、光村図書発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○**教育長** それでは、そのように進めたいと思います。

次に、算数についての御意見をお伺いいたします。

○**山下委員** 先に結論から申し上げますと、東京書籍が私は一番よいと思いました。

統計や確率について、その内容がどういふように表記されているかというのを特に見ました。

東京書籍がよいと思ったのが、まず題材の選び方です。例えば最初に6年生の教科書を見ましたが、最初に統計学を持ってきたとき、統計を扱うときに「優勝できそうかな」ということで、8の字飛びを何回できるか。これをここに持ってきて、実際にどのようにすれば優勝できそうかというのを推測させていくというところが、ほかの教科書と違ってよいと思いました。

特に、最後のチェックをするときに、全部のデータを見るのではなくて、練習を重ねていて最後の5回だけを比較するという、非常に確率統計というか、時系列的なデータも入っ

ているので、非常に思考としては高度な問題を扱っていると感じました。

あと113ページで、統計のデータを見て、普通はよい、悪いという判断をするのですが、ここでは、飛んだ回数や散らばり具合を見て、データでよいところを見つけて、いろんな賞をつくりましょう、としています。よく頑張ったで賞や、たくさん練習したで賞など、統計を使ってよい方向に持っていかうとしていて、非常によい書かれ方だと私は思いました。

また、その後の組合せについても非常に分かりやすく、リレーでどうバトンを渡していくとどういう組合せがありますか、4人でリレーをするとどういう組合せがありますか、というのは、子どもたちにとって非常に分かりやすい事例でまとめられていると思いました。

最後に、6年生から中学生の数学に移っていきますが、ほかの教科書が「6年生に向けて」や「中学生に向けて」という書き方をしているのに対して、算数卒業旅行ということで銘打って、楽しく表現しています。中学生はこういうことを学び、国際的には筆算の仕方はこうやっていると、この辺りは非常によいまとめ方です。最後はプログラミングについて書かれていて、非常に秀逸なまとめ方だと思います。

そういったことを総合的に考えて、東京書籍のものがよいかと私は思っています。

以上です。

○**鴨川委員** 2つの調査と、検討委員会の評価が総じて高いということを踏まえて、以下の理由から、東京書籍がよいと思っております。

東京書籍は、算数が苦手な子の目線で見るときに問題の数が精選されており、空間やレイアウトなどもとても見やすいと思いました。

一方で、苦手な子の目線に合わせ過ぎると、もっとぐんぐん伸びたいという子たちにとっては物足りないのではないかという議論があったと思いますが、問題を精選しつつもデジタルの問題が二次元コードで用意されているというところもありまして、それぞれの立場の子どもから見たときに、十分に個別最適な学びというのが保障されていると思いました。

以上から、東京書籍のものがふさわしいと考えます。

○**教育長** ほかの委員から何か御意見があれば伺いたいと思います。いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○**教育長** それでは、改めて確認をさせていただきます。

本日いただいた御意見も踏まえまして、算数については、皆様の総意として、東京書籍発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 それでは、そのように進めたいと思います。

次に、保健について御意見をお伺いいたします。

○山下委員 保健は5・6年生を中心に見させていただきました。

大修館書店と東京書籍と光文書院を見させていただきました。まず中を一目見たときに、何が課題なのかというのが、東京書籍はしっかり書かれていて、それに対してステップを踏んで解決するということが、どのページにも非常にしっかり書かれているので、実際に教える側も子どもたちにとっても、非常に分かりやすいのではないかと思います。

また、前回も申し上げましたが、ジェンダーの扱いが、変に偏らずに書かれているというところで、東京書籍のものが一番よいと思いました。

以上です。

○鴨川委員 私は、東京書籍のものがふさわしいと思いました。

理由の1つ目は、内容面で、今、職務代理もおっしゃっていたとおり、ジェンダーと申しますか、セクシュアリティの話だと思いますが、3・4年生でLGBTに関する記述、項目があつて、他の発行者にもあると思いますが、より分かりやすかったのが東京書籍ではないかと思います。

2つ目に、心の悩みを持った場合に、この保健というのはとても大事な教科になってくると思います。誰に何をどのように相談すればよいかということが、どの教科書よりも明確に分かりやすく書かれている印象をもちました。

3つ目に、単元ごとにSDGsとの関わりの目標が示されておりまして、心の問題、あるいは体の問題もそうですが、現代の様々な問題とのつながりを意識することができる構成になっていると思いました。

4つ目としては、単純なことですが、非常に見やすく、問いの持たせ方が特に秀逸だという印象を持ちましたので、以上4点から東京書籍のものがふさわしいと考えました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかの委員からも御意見などがあれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○星野委員 今、山下職務代理及び鴨川委員のお話を聞いておりまして、保健に関しましては、私以外の委員は、東京書籍を選ばれております。それに関しまして、東京書籍の記載内容について少し気になる部分がありましたので、私の考え方を述べた上で、検討委員会及び教育委員会事務局にお伺いしたいことがあります。

私の基本的な考え方というのは、まずスマートフォンやパソコン、デジタルゲーム、タブレットなどのデジタル機器を視聴している時間のことをメディア接触時間やスクリーンタイムと言いますが、日本小児科医会という私が属している学会では、小児期の長時間のメディア接触が、精神発達、視力、睡眠、記憶力などに悪影響を及ぼすということを10年以上前から警告しております。

残念ながら、日本の子どもたちは、先進国の中でもメディア接触時間が非常に長いことが指摘されておりました、当初その原因は、テレビやビデオ、デジタルゲーム、インターネットなどということになっておりましたが、近年、さらにGIGAスクール構想ということで、学校や自宅でのタブレットの使用時間が増えておりました、その接触時間がかなり拡大しております。

また、ゲーム依存、インターネット依存は、メディア接触時間の非常に長い日本の子どもたちにとって最も身近に起こる依存症であって、その重大性としては薬物依存などには劣るかもしれませんが、子どもたちにとって一番身近な問題と考えております。

そこで、新宿区は、GIGAスクール構想に関しては、もしかしたら日本で一番先進的な自治体ではないかと思っておりますが、それゆえに、この行き過ぎたメディア接触に対して、他に先んじて問題提起を行う必要があると考えております。

その考えを基に、今回教科書採択に際して拝見した保健の教科書では、各発行者ともスクリーンタイムの記載は概ねありました。ただ、個人的に気になった点として、東京書籍では3・4年生の24ページ、メディア接触について、絵ではスマホやタブレットらしいものはあるのですが、コンピュータという言葉のみを使っておりました、子どもたちにとって、コンピュータとスマホ、デジタルゲーム、タブレットは同一のものというのは考えにくいと感じました。少なくとも、他発行者に関しては、タブレット等の文言が入っているところがほとんどでした。

また、これは構成の問題かもしれませんが、6年生の依存症のところ、本来ですと、やはり薬物依存、アルコール依存、あと先ほど言った理由で、子どもたちにとってゲーム依存、インターネット依存などというのは、個々のものとして扱っていただきたいのですが、それが様々な依存症とまとめられていて、メディア接触に対する配慮が不足しているのではないかと感じました。

それを基に、私は東京書籍の教科書を支持しなかったのですが、ほかの委員がおっしゃっているとおり、東京書籍の教科書も、それ以外の部分では特に問題は感じておりませんので、



検討委員会及び教育委員会事務局は、私の考えている問題点に対して、何か解決策などは考えていらっしゃいますか。

○**教育指導課長** 今、委員から御指摘をいただいたとおり、メディア接触による視力の低下、それからネット依存については、本区教育委員会事務局としても重く受け止めております。

委員おっしゃるとおり、子どもたちの心のケアや心の教育という点からしても、メディア接触での懸念というものもございますし、学力調査の結果からも、メディアの視聴が長い子ほど正答率が低いという結果も出ているところです。

教育委員会としては、そういったところもしっかりと受け止めながら、今回この保健の授業では様々なメディアのことも触れてはいましたが、道徳や特別活動での情報リテラシーに関する学習など、メディアに対しての理解や分析というのは、保健の授業だけではなくて、ほかの学習の中でもしっかり進めてまいりたいと思います。

教科書の中身について申しますと、各発行者ともタブレット等を使用することの否定はしておりません。どちらかというところ、使用時間や使用方法については、家庭でルールをつくるですとか、あるいは自分自身でしっかり自律をして、メディアの視聴時間等については考えていくというところを促しており、子どもたちの主体性といったことも求めています。

そういったところも踏まえまして、保健の授業だけではなくて、道徳や特別活動を通じて、情報リテラシーを高める教育を今後ともしっかり充実させていきたいと思っております。

欧米などでは、シチズンシップという教育も進んでいるところです。こちらにつきましては、子どもたちがICTを主体的に学んで倫理的に活用できるといったような教育ですが、そういった様々な教育の方法があるということも今後研究をしていきたいと考えております。

以上です。

○**教育長** 星野委員、いかがでしょうか。

○**星野委員** 分かりました。

日本の子どもたちのメディア接触時間というのは、欧米の倍以上と言われていまして、本当に危険レベルに入っていますので、ぜひGIGAスクール構想を進めるのであれば、使い方をよく精査していただいて、なおかつ、それ以外のゲームやスマホなどの使用方法に関しても指導していただくということであれば、あえて東京書籍を否定する理由がなくなりましたので、私も東京書籍にさせていただきます。

○**教育長** それでは、今の質疑の中で星野委員から東京書籍というお話をいただきました。

教育委員会事務局においては、メディア接触時間について、保健の時間に限らず折に触れ

て授業、教育活動の中で触れていただくということでよろしくお願ひいたします。

ほかに御意見がありましたらお願ひしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○**教育長** それでは、改めて確認をさせていただきます。

本日いただいた御意見と、また、本日の協議を踏まえまして、保健については、皆様の総意として、東京書籍発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○**教育長** それでは、そのように進めたいと思います。

以上で、音楽、国語、書写、算数、保健の採択対象となる教科用図書の候補の絞り込みを終了いたします。

次に、これまでの協議におきまして、採択の対象となる教科用図書の絞り込みが2種となっている種目があります。それは英語でございまして、開隆堂出版と教育出版発行の教科用図書を採択の対象となる教科用図書の候補としておりました。

改めて、採択の対象となる教科用図書の候補を1種に絞り込みたいと思いますので、御意見を全ての委員にお伺いしていきたいと思ひます。

○**山下委員** まず、私が教育出版と開隆堂出版を比較して開隆堂出版がよいと思ひた理由は、ワードブックがあるかないかということです。

もう一つは、現状の学校調査で、東京書籍が一番評価が高くなっています。ということは、前回の議論で、書く量が非常に多いと言われている東京書籍であっても、現場は特に問題なく動いているのではないかという私の推測を基に、これを並べたときに、ワードブックもあり、書く量を比較して、やらなくてはいけない感がそれほど強くない開隆堂出版がよいというのが私の意見でした。

そこで、まず伺いたいのが、開隆堂出版のワードブックに対し、教育出版の後ろにあるワードカードという、レッスンごとのカードで、それを置き換えることが可能なかどうかということと、書く量が私は少ないと思ひましたが、これが適切であるかということです。こちらについて、改めてお聞きたいと思ひます。

○**統括指導主事** まず1点目のワードブックに、カードが置き換えられるかというお尋ねですが、これは可能かと思ひます。

東京都の調査書でも、教育出版の扱っているワードの数は少ないのですが、このカードを

入れますと扱っているワードの数は増えますので、ブックとカードで扱い方の違いはあると思いますが、活動の工夫で置き換えることは十分可能であると思います。

それから2点目ですが、その点は検討委員会でもかなり話題になりまして、結果として、検討委員会が教育出版をAとしましたのは、恐らく先生方は、ある程度書かせる欄があったほうがその流れに沿っていけるので、やりやすさはあるのだと思います。

ただ、一番話題になったのは、子どもたちの立場になったときに、英語を楽しむ、慣れ親しむという段階で、ALTも入りながら、担任も関わりながら楽しく英語を学んでいくとしたときに、例えば様々な子どもたちがいますので、特性や学習に対して課題をお持ちの子どもたちが、まずは英語というものについて、もちろん書くことも大事ですが、しっかり楽しんでもらうとしたときに、分量は多過ぎずに、話すこと、聞くこと、そちらの部分に重きを置いた上で、しっかり楽しめる適切な分量がよいのではないかということから、そういう判断に至った経緯がございます。

以上です。

○**山下委員** ありがとうございます。

カードを使うことでワード数がフォローできるのであれば、このカードをなくさないように注視していただくということで、まずワードブックの件についてはよろしいと思います。

次に、書く量についてですが、中学校に上がったときに、どちらにせよライティングの壁というのは出てくると思います。小学校まで楽しく学んで、中学校になって急に書くことに移行してしまうということで、「中1の壁」に直面してしまうのではないのでしょうか。その辺りについては、検討委員会で何か話は出ましたでしょうか。

○**統括指導主事** 確かに中学校の英語の授業と小学校の英語の授業では、随分変わってきます。中学校に入ってA、B、C、そして文法など、かなりしっかりと英語を書くことになっていきますが、外国語、英語の入り口と考えたときに、まず英語を嫌いになってほしくないというのが、検討委員の中で、話題に挙がりました。今回、調査委員会が学校調査と異なる結果を出していますが、そこは英語を専門とする先生方も強い思いとしてあるようで、ある程度書かせるといった活動も押さえながら、子どもたちが慣れ親しみながら英語のコミュニケーションを楽しむ。こういったところに重きを置いて、少しずつ、英語の文法や書くということに取り組んでいく。書くことを大事にしながらも、子どもたちが負担を感じることなく、楽しみながら学んでいけるよう、英語のコミュニケーションと書くことのどちらの部分も大事にしたという意見が多かったのが、経緯としてございます。

○山下委員 私の娘が英語を勉強しているのを見て、中学校になってから急に難しくなった気がします。小学校でやっているからできるだろうということで授業が進むのか、それとも、もう一度、一から教えてくださるかによって、そこの入り口はかなり違ってくると思います。

特に楽しく英語を学んできた子どもたちが、中学に上がって、さらにその窓を広げてくれるというのであれば、特にここを変えてくれというところではないですので、教育出版でもよろしいと思います。

あともう一点だけ伺いますが、書くときに、大きい教科書のほうが書きやすいのかと思いましたが、大きさについては検討委員会の中で何か意見は出ましたでしょうか。

○統括指導主事 英語に関しましては、教科書の大きさについて、検討委員会ではどちらがよいというのは、あまり話題にはなりませんでした。

○山下委員 であれば、私は教育出版でよろしいと思います。

○教育指導課長 委員御指摘のとおり、書くことについて、中学校に入ってから指導について、御心配があるかと思えます。

検討委員会の中でも、保護者代表の方から、書くことが少ないことについて不安があるという御意見はございました。その中で、中学校の先生方からは、より専門性の高い授業になってきますので、先ほど統括指導主事からもありましたが、むしろ、子どもが大好きな、話すことや聞くことなどを、まずは重視していきたい。特に、中学校ではスピーキングテストというのが、高校入試に入ってまいりました。そういった意味でも、スピーキングはより大事になってきており、スピーキング力を伸ばす方が難しいという意見もありました。

書くこと、読むことについては、専門性の高い教員が多くおりますので、そちらは任せてくださいという心強いお話もいただいております。これは中学校の英語科の専門の教員からのお話でもありますので、もちろんバランスよくといったところもございしますが、中学校に入学してからの英語の授業について、御心配いただいているところですが、学校もそのあたりはしっかり認識しているところでございます。

また、本区の中学生の英語の全国の学力調査の結果を見ても、かなり高い結果を出しております。

以上でございます。

○教育長 それでは、他の委員にも確認させていただきたいと思えます。

○星野委員 私は、前回も教育出版を選ばせていただきました。

最初、東京書籍と教育出版を見させていただいて、開隆堂出版に関しては、前回、調査委

員長に小学校の英語において、聞く、話す、書く、読むの中で何が大事ですかという質問をさせていただいたところ、やはり、聞く、話すが大抵だというお話をいただきました。ですので、前回に関しては、書くことの多い東京書籍より、聞く、話すが多い教育出版のほうを選ばせていただきました。

今回、改めて開隆堂出版の教科書も見させていただきましたが、あえて変える必要はないと判断いたしましたので、今回も教育出版がよいと思います。

○古笛委員 私も前回どおり、教育出版がよいと思いました。

前回お話ししたとおり、英語が苦手な私としては、子どもたちに英語を好きになってもらいたいです。思い返せば、ディス・イズ・ア・ペンから始まって、全く面白くなかったという記憶が強く残っています。いまでも英文を見ると、SVOやSVOOなどが浮かんできて、本当に自分でも嫌になってしまうので、ぜひ今の先生方から御意見をいただいたとおり、先生方の力量で、この教科書で英語を好きになってもらえるように期待を込めて、教育出版にさせていただきます。

○年綱委員 私も、英語に関しましてはアレルギーがありますが、今の子どもたちは非常に進んでおりまして、恥じらいなくいろいろやっていくと思います。

山下委員の御意見をお伺いし、家に帰ってじっくり両者を読みました。ワード数に関しては、私も少し不安があったのですが、先ほど統括指導主事からカードのお話がありましたので、そこはクリアになりました。

新宿区は本当に外国籍の子どもたちが多く、英語圏の子も多いです。ALTの派遣もとても充実しているので、子どもたちは本当に楽しく学んでいるというのは、学校訪問に行ったら強く感じております。

外国籍のお友達と楽しそうに話している様子を見ると、授業を通じて、少しずつ英語が身についているのだなと嬉しく感じました。子どもたちが無理なく学べる、楽しく学べる、そういう子どもたちの力を信じて、私はやはり教育出版で学んでほしいと思いました。

以上です。

○鴨川委員 私は本当に英語が好きでして、学校の勉強でもそれなりに点数を取っていましたが、どうして私は全然話すことができないのだろうということを、いつも海外に行ったときに思っています。

そのときに思うのは、やはりもっと小さいときに話す機会がたくさんあって、もっと話すことを楽しく学べていたら、もう少しうまく話せたのではないかということです。

また、そもそも外国語が小学校の教科として導入されたのは、「話す」や「聞く」ことを小さいときから学ばせるということを目的としています。

そうしますと、やはり書くことは5・6年の段階ではほどほどにする。それにふさわしいのは、教育出版のものではないかと思います。先ほど、統括指導主事が説明なさっていたとおり、教室にはさまざまな子どもたちがいて、特に特性を持っている子どもや、学業面で苦手意識を持っている子どもが多い中で、できるだけ外国語の「書く」ということは精選して、バランスのよいものがよいのではないかと思い、特に変更はなく教育出版を選びました。

少し今、先生方のお話を伺っていて思いついたのは、外国語の教科なので、新宿区ですし、英語はほどほどにして、もっと多言語にこれから活動を広げていくということも想定して、英語で書くことにそれほど力を置き過ぎなくてもよいのではないかという意見も申し添えさせていただきます。

以上です。

○**教育長** 私からも発言させていただきます。

私は前回と同じで、教育出版にさせていただきたいと思います。

ただ、中学校に上がって急に書くこと増えることに御心配な御意見もありますので、小学校のうちから少し書くことも踏まえながら、中学校とうまく連携できる取組も進めていただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

ほかに、御意見はありますか。

○**山下委員** 鴨川委員が最後におっしゃっていたことに関連して、多言語を学ぶことは非常によいと思ったので、今、新宿区で英語以外の言語を教えている例はありますか。

○**統括指導主事** 授業として他の言語を教えていることはありませんが、様々な国の方と国際理解教育の中で交流する、特に留学生の方や大使館の方などと交流する、そういった中でほかの言語に触れることはございます。

○**山下委員** ありがとうございます。

○**教育長** ほかによろしいでしょうか。

○**年綱委員** 大人が思っている以上に、子どもたちは多言語が飛び交う環境にいますので、流暢に話すことはできなくても、様々な言語を耳に聞き慣れている、そういう状況は新宿区ならではの教育環境ではないかと思います。

子どもたちが片言の英語で、外国籍のお友達に一生懸命通訳してあげているのを見て、子どもの力はやはりすごいなと感じました。

○教育長 それでは、今までの協議内容の確認をしたいと思います。英語については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、教育出版発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 それでは、そのように進めたいと思います。

本日までの協議で、全ての種目について採択の対象となる教科用図書の候補を1種に絞り込むことができました。採択候補となった教科用図書については、議案としてまとめ、8月4日の第8回定例会に提案をさせていただきます。

ここで、第8回定例会の議案の形式及び審議の進め方について、お諮りしたいと思います。

令和6年度使用新宿区立小学校教科用図書につきましては、候補の図書1種への絞り込みを済ませましたので、全種目を一括して掲載した議案とさせていただき、全種目を一括して審議した後、一括採択を行うということで進めさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 それでは、そのように進めさせていただきます。

本日の協議はこれで終了となります。事務局から何かありますでしょうか。

○教育調整課長 特にございません。

○教育長 ありがとうございます。

---

## ◎ 閉 会

○教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会といたします。

ありがとうございました。

---

午後 3時40分閉会